



た

ぐち

あきら

田口章が考える

明日の静岡県



将来を見すえた静岡県改革

(浜松改革の目線で20年30年先の県政基盤をつくる)

「中央集権」から「地域主権」の流れが進んでいます。自治体が独自色を発揮できるチャンスが広がると同時に、国県市の三層になっている自治体の役割分担の議論も進んできます。私は、浜松改革に取り組んだ経験を活かし、将来にわたって安心して暮らせる静岡県をめざして、次のことに取り組みます。

★行財政改革

・県と市町の役割の見直し

県と市町の二重行政をなくし行政の効率化を図ります。あわせて基礎自治体(市町)、特に政令市へのさらなる権限委譲に取り組みます。

・次世代にツケを回さない

浜松市の目線「連結ベース(一般会計+企業会計+特別会計+第三セクターなど)」でみると、県の「将来世代負担比率」は、20年度末で49.9%と、浜松市の13.3%(21年度末)に比べずいぶん高くなっています。「公会計改革」を推進し、財政健全化を進めます。

・事業の徹底的な見直し

総合計画と業務棚卸をチェックし、施策の優先順位を明確にします。漫然と実施されている事業の廃止や事業主体の見直しを行い、ムダをなくします。

・ファシリティマネジメント(資産経営)

高度成長期に造った施設が老朽更新時期を迎えます。負担を先送りするのではなく、最小の経費で維持修繕を行うとともに施設の統廃合を進めます。

★議会改革

闊達な政策議論をおこない、議会の責務である意思決定機能とチェック機能を高めます。

笑顔あふれる元気な静岡県

(改革の目的は静岡県民の幸せな暮らし)

これまで私は「元気な浜松」をめざして取り組んできました。その姿勢は今もまったく変わりません。誰もが生き生きと暮らし、産業振興が進み、活気にあふれた郷土づくりを引き続き進めていきます。笑顔あふれる「元気な静岡県」、そしてその中でも「一番元気な浜松」をいっしょに創っていきましょう。

★生き生きと暮らしやすいまちづくり

・ユニバーサル社会

ユニバーサルデザイン(UD)のまちづくりに積極的に取り組み、障がいの有無や年齢、国籍などにかかわらず、誰もが暮らしやすいまちづくりを進めます。また学校教育や家庭教育を通して「心のUD」にも取り組みます。

★子どもは社会の宝物

・教育

ひとりひとりを大切に、地域主権時代にふさわしい独自性ある教育施策を進めます。

・子育て支援

保育所と学童保育の待機児童解消を実現します。国が検討している「こども園」の状況を見ながら、住民目線で制度の再構築に取り組みます。

★産業政策

・ものづくり産業の基盤強化

ものづくり産業を維持発展させるため、人材育成や技術開発、販路拡大、金融支援など、県市の連携を深めます。

・雇用労働政策

県の雇用環境は東中西部で異なることから、地域のニーズに応じた施策を進めます。遠州地域では、産学官連携の中、就労能力の育成や雇用の場の創出を進めます。

・観光産業の育成

地域特性を活かした滞在型ツーリズムの開発を進めます。また県民相互の交流促進にも取り組み、広大な浜松市の地域資源を広くアピールします。